

事業 番号	事業名	事業概要		確定額 (千円)	事業区分
		事業実施により実現できた具体的効果・成果			重点等
	事業者名	実施地等			
		実施期間			
URL					

内12	「第6回霧、霧採取、露に関する国際会議」の開催事業	<p>霧や露に関する国際会議を開催し、先進国からは主に、霧と露の気象学と霧の環境影響(自然環境と植生への影響、交通障害等)が、開発途上国からは主に、水資源としての利用の研究が、それぞれ発表された。</p> <p>この国際会議の成果としては、この分野の研究の最先端が発表され、国際的な規模での研究交流がなされたことがあげられる。 研究の発展は、領域の狭間に大きな発展の芽があるものだが、この国際会議は化学、物理、気象、植物等の様々な専門家が霧や露という対象の同一性で集まって議論することから、様々な示唆がそれぞれの分野で得られたことは、大きな収穫であった。</p> <p>主な発表としては、パリ郊外やドイツ山岳部でのガス、雲・霧水、エアロゾル相互作用についてのプロジェクト研究の発表、霧水・雲水内での二次有機エアロゾル生成過程の研究、生物が疎水性の表面で霧を集め、これを使って生きているという報告、霧の生成により大気中の汚染物質が濡れた物体表面に集められ、蒸発の過程でそれが変質するという報告、酸性霧の植物影響に関する曝露実験結果、丹沢山塊における酸性霧のフィールド観測結果等の報告がなされた。</p> <p>この国際会議の日本での実施を期に、今後のこの国際会議参加の契機になった日本の研究者が増加し、この分野の国際研究交流が進むことが期待される。</p> <p>なお、25ヶ国という多くの外国人出席者は、横浜で、あるいはエクスカーションとして箱根に向かう中で、日本の美しい風景を堪能するとともに、日本文化に触れて感銘を受け、喜んで帰国しており、当初の目標の一つである、日本びいきの世界の友人を多数作る、という目標も達せられたと考えている。</p>	1,494	国際会議	
		第6回霧、霧採取および露に関する国際会議組織委員会		【実施地等】神奈川 【実施期間】2013/5/19～2013/5/24	【重点事項 該当事業】
		http://www.fogconference2013.org/			